

II 24年度学校関係者評価と25年度の取り組み

◆ 1 【学び舎について】

提言	学び舎について、ホームページを見ても情報不足である。25年度は、世田谷9年教育の完全実施の年である。情報提供の仕方の再構築やホームページの充実とともに、「自立の学び舎」の更なる、具体的な活動の推進を期待している。
取り組み	<ul style="list-style-type: none">◎ 学び舎について<ul style="list-style-type: none">○ 3校の教員が情報を共有し、9年間を見通して考える事を大切にしました。25年度は児童生徒の社会性の育成について共に考え、分科会ごとに毎回同じメンバーで継続して話し合いを進めてきました。各分科会で話し合った内容については、学校ごとに発表の場を設け、教員全員が周知するように努めました。○ みなみまつりでは、中学校の吹奏楽部が演奏に来てくれました。○ 6年生は、砧南中学校へ体験授業を受けに行きました。○ 砧南中学校の学校便りを職員室前の廊下に掲示しました。また、4年生以上に配布しました。◎ 学校ホームページについて<ul style="list-style-type: none">○ ホームページへの情報発信を各分掌に位置づけ、組織的な情報発信ができるよう努めました。

◆ 2 【生活指導について】

提言	生活指導は、教師と児童の信頼関係が根底になくてはならない。友達のような関係ではなく、良い意味での上下関係を構築する必要がある。 また、児童の生活指導においては、家庭との協力が不可欠である。保護者会等を利用して、教師自身の指導観を伝えると共に、保護者への協力を呼び掛けてはどうか。
取り組み	<ul style="list-style-type: none">◎ 児童に対して<ul style="list-style-type: none">○ 年度はじめに、児童に「やってはいけない（これだけは許さない）こと」と「やって欲しいこと」を明確に伝えました。そして、「やってはいけないこと」をした場合には、時を逃さずにしっかりと叱り、「やって欲しいこと」ができた場合には、たっぷりと褒めることを遂行しました。○ 児童と会話をする際には、丁寧語を用いるように努めました。<ul style="list-style-type: none">・教員の言葉遣いが丁寧になり過ぎないように気をつけました。 ⇒児童への「お願い」なのか、「指導・指示」なのかの区別をしっかりとつけるようにしました。・児童に丁寧語を用いることを指導しました。○ 児童を呼ぶ際には、名前に「姓+さん」「姓+くん」をつけるようにしました。◎ 保護者に対して<ul style="list-style-type: none">○ 保護者に児童のよかつたところを積極的に伝え、保護者との良好な関係作りに努めました。○ 困っていることも保護者に積極的に伝え、家庭の協力を得るようにしました。○ 児童と担任との信頼関係が築けるよう、保護者全体会等で協力をお願いしました。

◆ 3 【あいさつについて】

提言	「率先垂範」を継続して行い、大人があいさつの手本となるよう、実証してほしい。 保護者や教師のあいさつに対する認識と、児童の認識にずれがある。限られた条件の中でしか、児童があいさつできていなということが考えられる。あいさつについての、ガイドラインやモデルケースを作成し、自信をもつてあいさつできる児童が増えることを期待する。
取り組み	<ul style="list-style-type: none">◎ 学校全体で取り組んでいきました。PTAとの連携も継続して行いました。教師が率先してあいさつをしました。◎ オアシス運動を推進しました。<ul style="list-style-type: none">○ 年度初めに、委員会活動と連携して、児童会でオアシス運動を進めました。○ 代表委員会がオアシス運動のポスターを作成し、全校朝会でよい挨拶の仕方と好ましくない挨拶の仕方を示しました。◎ 学級指導の中で、毎学期の始めに時間を取って指導しました。◎ 相手の顔を見てからあいさつする事を実践している児童を称賛し、全校児童に紹介しました。